

大分県長期漁海況予報

〔平成 29(2017)年 8 月～12 月までの海水温・漁模様の見通し〕



大分県農林水産研究指導センター水産研究部

879-2602 大分県佐伯市上浦大字津井浦 194-6

Phone0972-32-2155 Fax.0972-32-2156 <http://www.pref.oita.jp/soshiki/15090/>

海況経過<平成 29 年 4～7 月>

■黒潮

3 月、都井岬沖で 2 月下旬に形成された小蛇行が発達しました。
4 月下旬～6 月上旬、都井岬沖の小蛇行の一部が東進し、都井岬～潮岬沖を通過しました。
7 月上旬、都井岬沖の小蛇行が東進を始め、都井岬沖の黒潮は接岸し始めました。

■水温

豊後水道の水温(0～75m層)は、4、5月は「やや低め～平年並」、6月は「低め～平年並」、7月は「高め」で推移しました(図1)。

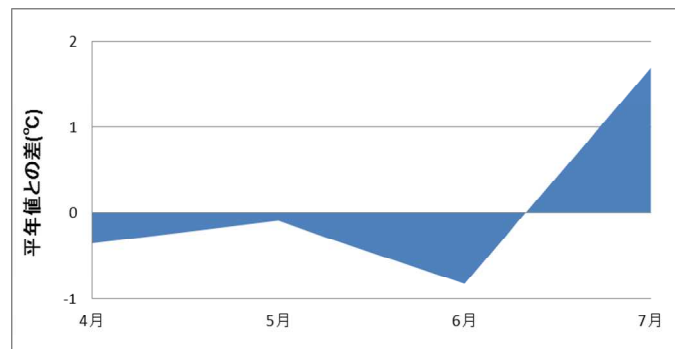


図1 豊後水道における水温の平年値との差(0～75m層の平均値)

■塩分

豊後水道の塩分(0～75m層)は、4月は北部で「やや低め」、南部で「平年並み～やや高め」、5月は「平年並～やや高め」6、7月は「やや高め」で推移しました(図2)。

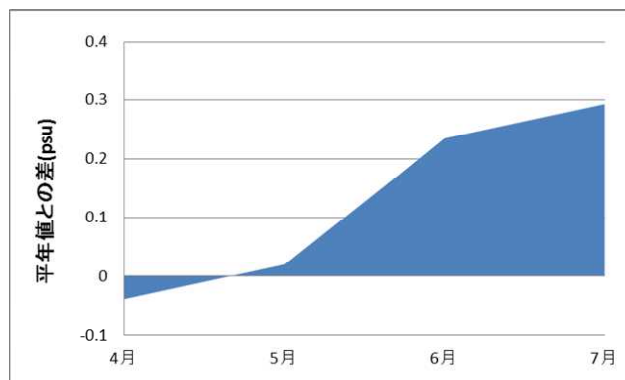


図2 豊後水道における塩分の平年値との差(0～75m層の平均値)

今後の海況の見通し<平成 29 年 8~12 月>

■黒潮

足摺岬沖の小蛇行は東進し、8月中旬から潮岬沖を通過するでしょう。

都井岬沖では、9月まで接岸傾向で推移し、10月からは離岸傾向になるでしょう。ただし、小蛇行の明確な形成は見られない模様です。

■沿岸水温

「高め」で推移するでしょう。

■予測の説明と根拠

・黒潮流路予測は平成 29 年度第 1 回太平洋いわし類・マアジ・さば類等長期漁海況予報(中央水産研究所及び関係都道府県:2017)を参考にしました。

・沿岸水温は気温の影響を強く受けると考えられます。福岡管区気象台の「九州北部地方3ヶ月予報」では「低め10%、平年並み30%、高め60%」と予測していることから沿岸水温は高めで推移すると思われます。

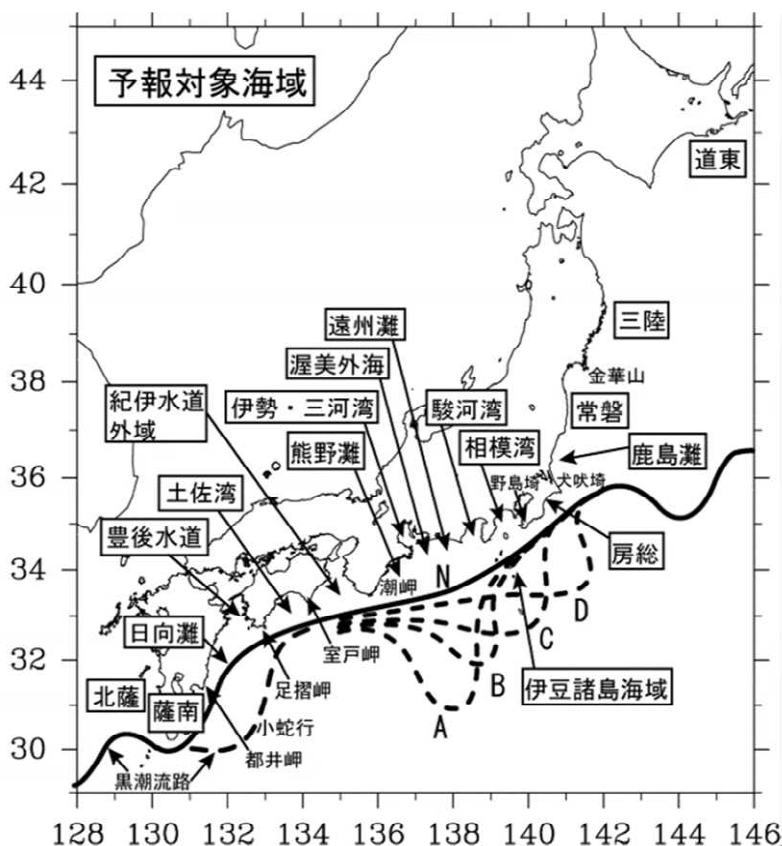


図3 黒潮流型の分類

※上図は太平洋いわし類・マアジ・さば類等長期漁海況予報
(水産研究・教育機構プレスリリース資料)より引用

■マイワシ

□2017年4～6月の漁況経過

2017年4～6月における豊後水道南部主要3港(鶴見、米水津、蒲江)のまき網によるマイワシの漁獲量は4、5月に0トン、6月に1トンの計1トンでした。前年比0.1%、1986～2016年の平均値(以下「平年」)の比0.1%と、前年・平年を大きく下回る漁獲量となりました。漁獲の主体は被鱗体長^(用語解説①)8～9cm前後(いずれも0歳魚:2017年生まれ)でした。

なお、近隣海域^(用語解説②)では宮崎県は前年の23%、愛媛県は前年の73%、高知県では前年の約0%の漁獲量となっています(宮崎県のみ2017年1～6月、その他は2017年4～6月の漁獲量合計値)。

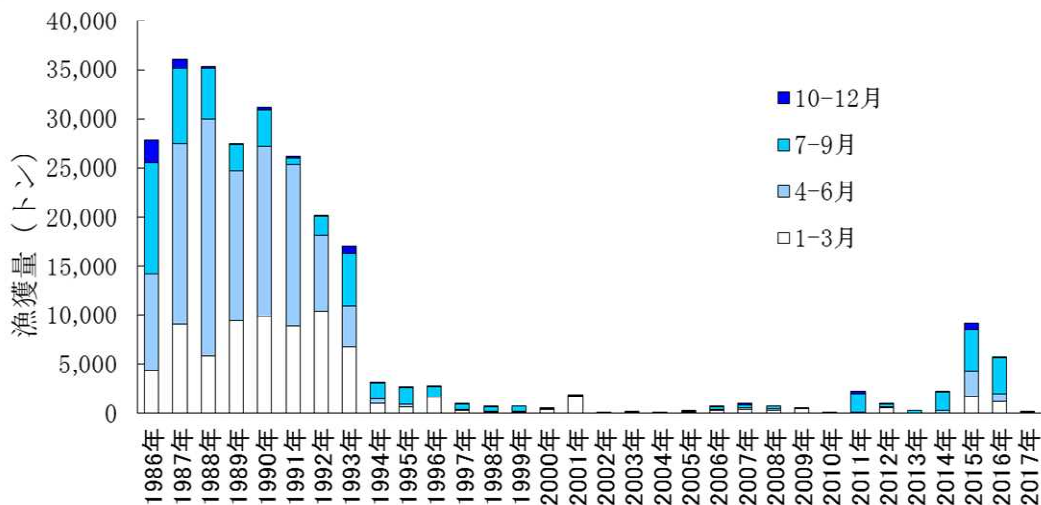


図4 マイワシのまき網における漁獲量(鶴見・米水津・蒲江支店)

今後の見通し<2017年8～12月>

来遊水準:

豊後水道への来遊量は、前年を下回るでしょう。(2016年8～12月:2154トン)

漁獲対象年級群および体長:

8～12月は被鱗体長12～18cmの0歳魚(2017年生まれ)が主体となるでしょう。

【説明】

0歳魚(2017年生まれ)が漁獲の主体となった5～6月の漁獲量が1トンで前年を下回ったため(前年比0.1%)、今後の0歳魚(2017年生まれ)の来遊に期待が見込めないことから来遊水準は前年を下回ると予測しました。ただし、マイワシ資源は東日本を中心に太平洋沿岸各県で回復傾向が見られていることから、1994年以降に20年ほど続いたマイワシ資源低迷期よりは高い漁獲水準になると予想されます。



■カタクチイワシ(成魚)

□2017年4～6月の漁況経過

2017年4～6月における豊後水道南部主要3港(鶴見、米水津、蒲江)のまき網によるカタクチイワシの漁獲量は4月に202トン、5月に122トン、6月に111トンの計434トンでした。前年比45%、平年比68%と、前年・平年ともに下回る漁獲量となりました。漁獲の主体は、被鱗体長7～9cm前後の1歳魚(2016年生まれ)でした。なお、宮崎県では前年の133%、愛媛県では前年の104%、高知県では前年の125%の漁獲量となっています。

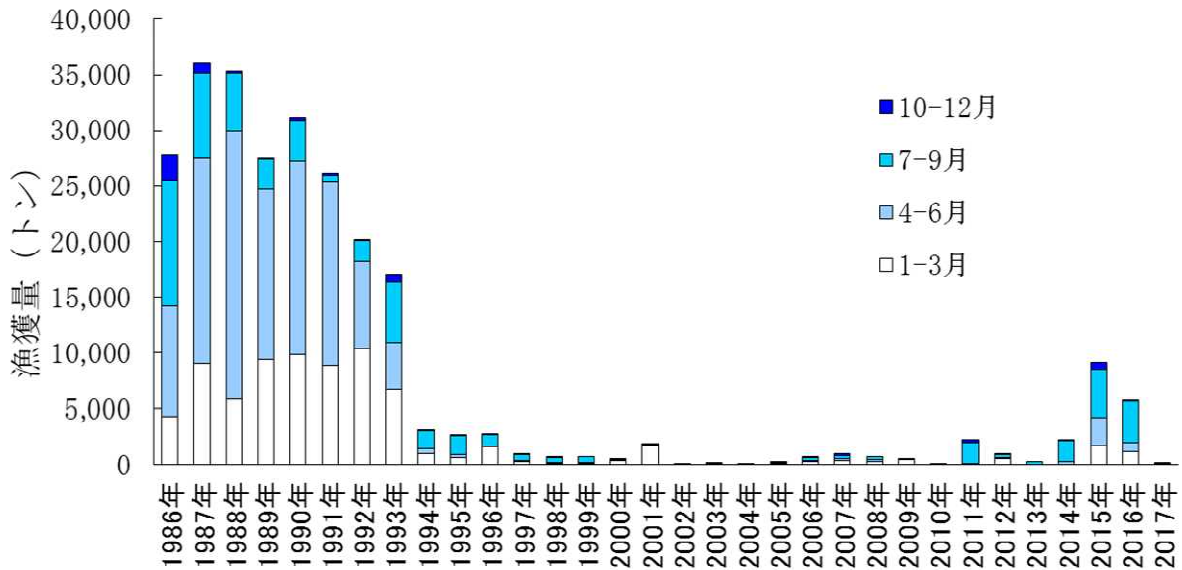


図5 カタクチイワシのまき網における漁獲量(鶴見・米水津・蒲江支店)

今後の見通し<2017年8～12月>

来遊水準:

豊後水道への来遊量は、前年並みでしょう。(2016年8～12月:933トン)



漁獲対象年級群および体長:

被鱗体長8cm前後の0歳魚(2017年生まれ)主体に1歳魚(2016年生まれ)が混じるでしょう。

【説明】

1～6月の漁獲量(1歳魚主体)が前年を下回っていることから(前年比49%)、1歳魚(2016年生まれ)が漁獲の主体となる8月は前年を下回ると予想されます。一方で、8～10月の3ヶ月間における漁獲量は4～6月の宮崎県シラス漁獲量と関係があり、その関係から推測すると前年を上回る結果となったことから、総合的に判断して来遊水準は前年並みと予測しました。

■ウルメイワシ

□2017年4～6月の漁況経過

2017年4～6月における豊後水道南部主要3港(鶴見、米水津、蒲江)のまき網によるウルメイワシの漁獲量は4月に23トン、5月に0トン、6月に3トンの計26トンでした。前年比34%、平年比14%と、前年、平年を下回る漁獲量となりました。漁獲の主体は、被鱗体長7.5～8.5cm前後の0歳魚(2017年生まれ)でした。

なお、宮崎県では前年の41%、愛媛県では前年の35%、高知県では前年の55%の漁獲量となっています。

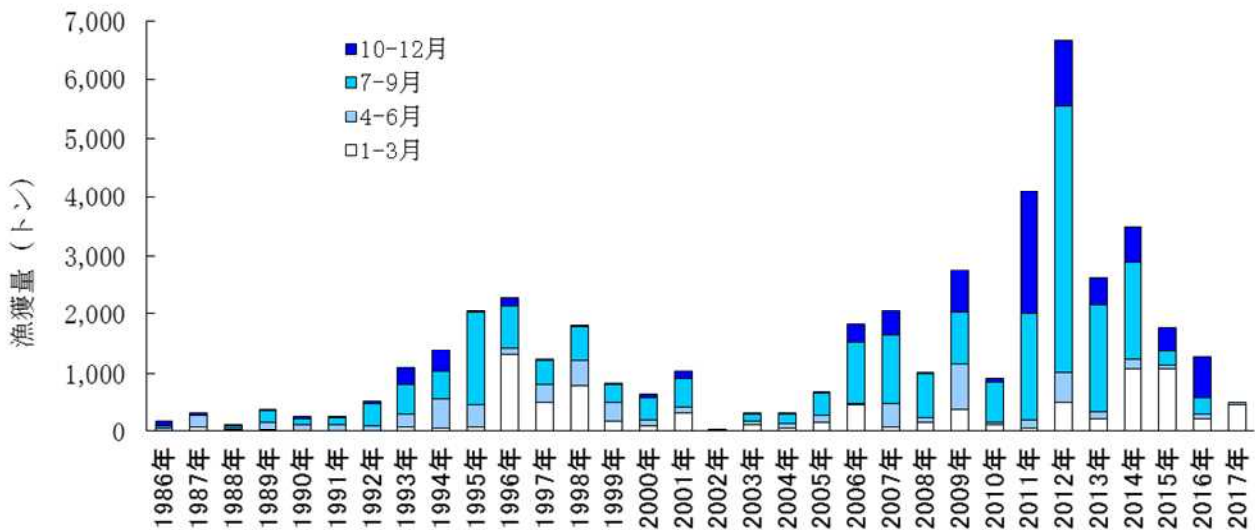


図6 ウルメイワシのまき網における漁獲量 (鶴見・米水津・蒲江支店)

今後の見通し<2017年8～12月>

来遊水準:

豊後水道への来遊量は前年を下回るでしょう。(2016年8～12月:938トン)

漁獲対象年級群および体長:

8～10月は被鱗体長10～15cm前後の0歳魚(2017年生まれ)が主体となるでしょう。



【説明】

近年の傾向から7～10月に大幅に漁獲が増えると考えられますが、0歳魚(2017年生まれ)が漁獲の主体となる4～6月のまき網漁獲量(0歳魚主体)が前年を下回ったため(前年比34%)、0歳魚(2017年生まれ)の来遊にあまり期待が持てません。よって来遊水準は前年を下回るでしょう。

■マアジ

□2017年4～6月の漁況経過

2017年4～6月における豊後水道南部主要3港(鶴見、米水津、蒲江)のまき網によるマアジの漁獲量は4月に91トン、5月に205トン、6月に66トンの計363トンでした。前年比266%、平年比69%と前年を上回り平年を下回る漁となりました。期間中の漁獲の主体は尾叉長^(用語解説)③16～17cm前後の1歳魚(2016年生まれ)でした。

なお、宮崎県では前年の168%、愛媛県では前年の233%、高知県では銘柄「アジ」が前年の79%で銘柄「ゼンゴ」が前年の249%の漁獲量となっています。

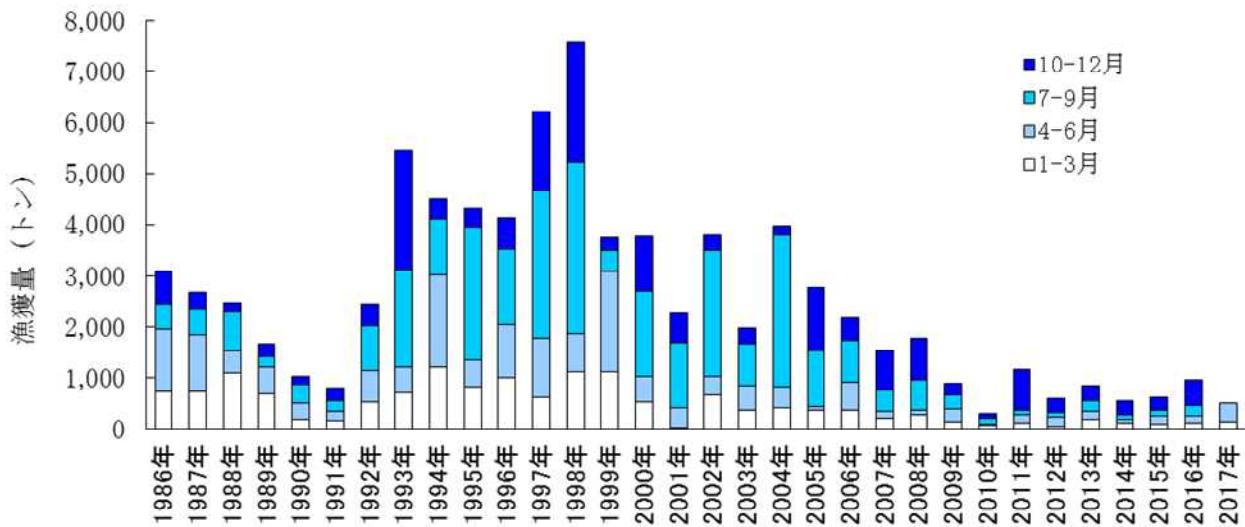


図8 マアジのまき網における漁獲量(鶴見・米水津・蒲江支店)

今後の見通し<2017年8～12月>



来遊水準:

豊後水道への来遊量は前年並みでしょう。(2016年8～12月:619トン)

漁獲対象年級群及び体長:

尾叉長15cm前後の0歳魚(2017年生まれ)が漁獲の主体となるでしょう。

【説明】

予測期間中の漁獲の主体になるのは0歳魚(2017年生まれ)と推定されます。新規加入個体が見られる1～6月における県南定置網(蒲江)漁獲量と予測期間中の県南まき網漁獲量には関係が認められ、また県南定置網(下入津)の1～6月のゼンゴ漁獲量にも同様の関係が認められます。両者の指標から来遊水準は、比較的低水準であった前年並みと予測しました。

■サバ類

□2017年4～6月の漁況経過

2017年4～6月における豊後水道南部主要3港(鶴見、米水津、蒲江)のまき網によるサバ類の漁獲量は4月に656トン、5月に326トン、6月に4トンの計986トンでした。前年比356%、平年比86%と前年を上回り平年を下回る漁となりました。期間中の漁獲の主体は、尾叉長33cm前後の2～3歳魚(2014～2015年生まれ)でした。

なお、宮崎県では前年の372%、愛媛県では前年の61%、高知県では前年の99%の漁獲量となっています。

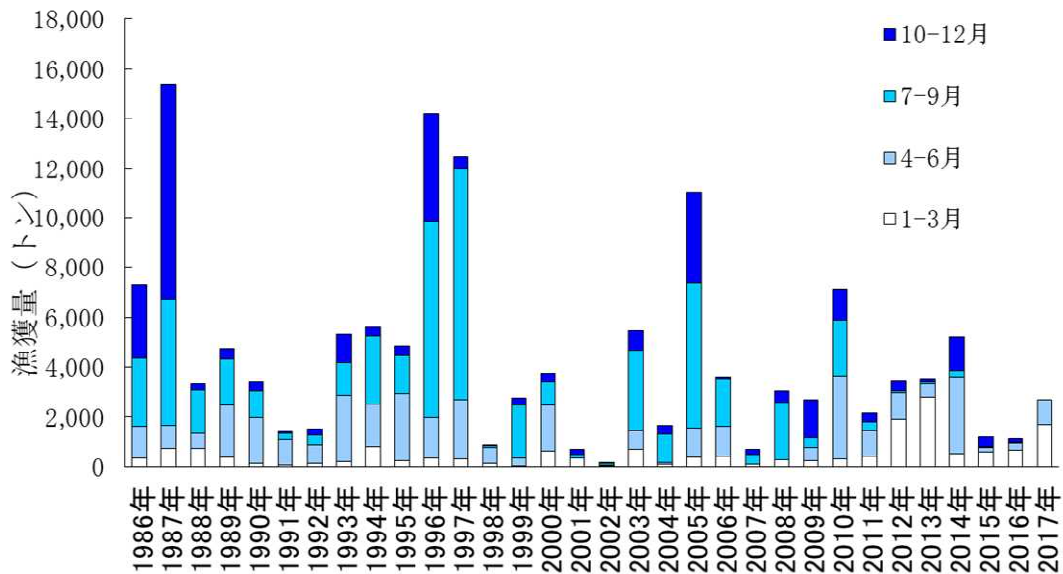


図9 さば類(マサバ・ゴマサバ)のまき網における漁獲量(鶴見・米水津・蒲江支店)

今後の見通し<2017年8～12月>



来遊水準:

豊後水道への来遊量は、低水準であった前年を上回るでしょう。(2016年8～12月:166トン)

漁獲対象年級群および体長:

近年の調査結果によれば、期間中は尾叉長20～30cm前後の0～1歳魚(2016～2017年生まれ)が主体となるでしょう。

【説明】

予測期間中は0～1歳魚が漁獲の主体になりますが、0歳魚(2017年生まれ)が漁獲の主体であった5～6月の漁獲量が前年を上回ったため(前年比208%)、来遊水準は低水準であった前年を上回ると予測しました。

その他

■予測の根拠および参考資料

・平成29年度第1回太平洋いわし類・マアジ・さば類等長期漁海況予報(中央水産研究所及び関係都道府県:2017)

URL: <http://www.fra.affrc.go.jp/pressrelease/pr2017/20170731/20170731press.pdf>

■用語解説

- ①被鱗体長 : 体の前端から、尾柄の鱗で覆われている部分の後端までの直線距離。
- ②近隣海域 : ここでは、3県(宮崎県・愛媛県・高知県)の海域とし、高知県の漁獲量の前年比は宿毛湾における中型まき網によるものとししました。
- ③尾叉長 : 体の前端から、尾びれの湾入部内縁中央(くびれている部分)までの直線距離。

■問い合わせ先

この予報に関する問い合わせ先は、大分県農林水産研究指導センター水産研究部 栽培資源チームまで。

〒879-2602 大分県佐伯市上浦大字津井浦194-6

電話:0972-32-2155

FAX:0972-32-2156